

山陽小野田市食育推進会議議事録			
会議の種類	令和6年度第3回山陽小野田市食育推進会議		
日 時	令和6年11月20日（水） 10:00～11:30		
場 所	高千帆地域交流センター分館2階		
出席者	山陽小野田市保育協会 今井 梢（委員） 市 民 代 表 富田 輝美（委員） 山陽小野田市地球温暖化対策地域協議会 内 藤 美恵子（委員） 山口県販売協力店連携協議会 西 丸 朋子（委員） 山陽小野田市食生活改善推進協議会 半 矢 幸子（副会長） 山口県漁業協同組合 久 中 幸子（委員） 小野田南高泊干拓農業協同組合 松 村 孝子（委員） 市 民 代 表 村 上 美喜子（委員） 宇部フロンティア大学短期大学部 山 下 晋 平（会長） （出席者数 9人）		
欠席者	（欠席者数 6人） 山陽小野田市私立幼稚園連盟 勝 木 京子（委員） 山陽小野田市教育研究会 佐 伯 剛（委員） 山陽小野田市母子保健推進協議会 高 木 理代（委員） 山陽小野田市立山口東京理科大学 立 花 研（委員） 山口県立厚狭高等学校 森 祐子（委員） 山陽小野田料飲組合 山 本 直 仁（委員）		
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター 納 屋 早与子		
事務局	福祉部次長兼高齢福祉課長 尾山 貴子 健康増進課技監 大海 弘美 健康増進係長（食育担当） 加藤諭香江	健康増進課長 健康増進係長 健康増進係主任技師	山本 玄 山本真由実 白井 誓栄
食育推進庁内 連絡会	市民部次長兼環境課長 山本 満康 学 校 教 育 課 長 山本 敦士	農 林 水 産 課長 学校給食センター所長	臼井 謙治 吉村 匡史

会 事 務 局 (欠席委員) 会 長 事 務 局	1 開会あいさつ 2 議事 (1) 第3次山陽小野田市食育推進計画の最終案について (資料1の5章までについて事務局から説明) 資料1の5章までについて、ご質問、ご意見はあるか。 資料1の5章までについて、本日、欠席委員より事前に意見をいただいているので、紹介したい。 43ページの「2学校、保育所等における食育の推進」について、前回の会議でもご意見が出ていたが、関心のない人にいかに関心を持っていただくか、ということが大事だと感じる。ホームページ、SNS、チラシなどへの掲載も大事だが、それだけでは、主に、そもそも関心のある人が見るということになると思うので、幼稚園や保育園、小学校での教育が重要ではないかと思う。先生方がお忙しく、また時間割としても余裕がないかもしれないので、その点が難しいところだと認識はしているが、低学年のうちに食に関する知識を身に付けてもらうこと、そのご家族にも理解していただくことが、特に大事ではないかと思う。すぐに改善が見えてくるようなものではないと思うので、継続が必要と思う。 出前講座や食育に関するイベント等で、SOS健康フェスタのように企業等とコラボレーションしてはどうか。「協創」によるまちづくりは、いろいろな関係機関、団体、個人とのコラボレーション企画があれば面白いと思う。 また、親と子が集う場として学校の参観日に、食と健康なカラダづくりや精神面等に対するメリット、デメリットなどを啓発してはどうか。 2点事務局に質問。資料1の9ページ、第2次山陽小野田市食育推進計画最終評価結果の目標指標13「食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している市民の数」は154人だが、39ページの現状値では651人と約4倍に増加している。この目標値は“増やす”だが、どこまでの増加を目指しているのか。また、資料1の9ページの第2次山陽小野田市食育推進計画の目標指標には「ねたろう食育博士認定者数」とあるが、39ページの目標指標から外れている理由があるのか。 1点目の質問についてだが、国の計画でもボランティア数を増やしていくことを目標指標としている。国と同様に県も指標としている。これまで、ボランティア数について十分な把握ができていなかったが、ボランティア団体について、改めて庁内の関係各課と調整を行い、把握できる範囲で見直しを行った。それにより、こども食堂に関わっている方も把握できた。また、ねたろう食育博士養成講座を第1次食育推進計画から行っており、認定者数が増えているが、この認定者のうち、現在も地域住民に食育の大切さを伝える活動をしている人が、認定者の1/3程度いる。この方たちもボランティア数に含めることとした。このため、現状値が増えている。目標値の「増やす」はこの現状値を1人でも増やしていきたい。という考えである。 2点目の質問のねたろう食育博士認定数については、先程お伝えした

会 長	ように、ボランティアとして地域で活動する視点が強くなってきているため、ボランティアとしての活動実績に入れていきたいと考えている。引き続き、ねたろう食育博士養成講座は継続していく予定である。
委 員	以前の会議で、ねたろう食育博士に認定されただけの人をボランティアにどう繋げていくかという課題もあがっていた。認定者をボランティアに繋げていくことができればと思う。 資料1の5章について、ご質問、ご意見はあるか。 欠席委員から、園の頃から食に関する知識を身に付けることが重要とあったが、今の保育現場で、食に関する指導をより増やすことは可能なのか。
委 員	例えば、年中児に対して、お箸の持ち方の指導や食べる姿勢の指導など、各園で食育活動を行っている。企業とのコラボによる食育活動を今後、増やしていきたいと考えている。ヤクルトは出前講座など様々な食育事業を行っており、園で出前講座を実施してもらったことがある。給食現場で手一杯という現状もある為、企業等の出前講座を利用することができれば、食育活動の幅が広がる。
会 長	欠席委員の意見にもあったが、園などの現場で、より食育を行った方が良いが、難しいという現状がある。それに対して協創ということで企業とのネットワークが構築できればと思う。それを具体的施策にどう入れるか考えていく必要がある。
事 務 局	43ページには学校、保育所等における食育の推進が記載しており、欠席委員の意見で、学校の現場等で興味がない人も含めた指導が可能となるので、学校で指導をした方がいいとの御意見であった。また、39ページの目標指標17「栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均回数」とあるが、この目標指標は地場産物のことであるため、食に関する指導実績が見えない。欠席委員の意見を採用するのであれば、栄養教諭として食に関する指導をどのくらいしたかが分かるようにすると学校による取組がどれくらい増えたかがわかると思う。
事 務 局	目標指標は、国・県と比較できるように同じ項目にしている。食育に関する指導や取組は、栄養教諭に限らず、行政栄養士など、その他教員等も行っている。どこまで含めるかの判断が必要になるが、取組自体が見えるよう目標指標に入れるのか、毎年、この会議で行っている事業報告で実績を確認していくのかは持ち帰って検討したい。
会 長	その他ご意見はあるか。なければ、資料2について、説明をお願いしたい。 (資料2について事務局から説明)
事 務 局 (欠席委員)	資料2について、本日、欠席委員より事前に意見をいただいているので、紹介したい。 「将来、妊娠を希望している人は葉酸を積極的にとろう」とあるが、妊娠を希望している人は、特に、葉酸の摂取が必要ということと思うが、将来、妊娠を希望している人以外は摂らなくてもよいのかというようにも捉えられる、「将来、妊娠を希望している人は」という部分はなくて

	もよいように思う。 「塩分過多」や「やせ・肥満」といった生活習慣病につながる食生活について対策が記載されていますが、そもそも、「自分の体は食べたものから作られている」という基本も改めて認識していただけると良いかと思う。
(欠席委員)	「さまざまな機会をとおして、農林水産物の生産に関わる人々と交流しよう」とあるが、園では、そのような機会はないのが現状で難しいように感じる。
会 長	欠席委員の意見について、まず考えていきたい。葉酸について、「将来、妊娠を希望している人は」の文面があることによって、希望していない人は摂らなくても良いと捉える人もいるのではないかとの意見だったが、これについて意見はあるか。
オブザーバー	葉酸を明記した経緯として、妊娠前から始める妊産婦のための食生活指針が改定され、その言葉をそのまま明記したからだと思うが、いかがか。
事 務 局 オブザーバー	その理由もある。 国の指針でコラムとして記載されている。葉酸を市民の目標として挙げることも再度検討してはどうか。妊娠前から始める妊産婦のための食生活指針が改定された改訂された経緯として、思春期やせの問題もある。あくまでも食生活は繋がっているので、葉酸をピックアップするかどうかを、国の指針と併せて再度検討してはどうか。
会 長	葉酸について、市では葉酸サプリを配布している実績もあり、「妊娠前から葉酸を取りましょう」という周知を含めて、市民の取組として記載したのではないかと思う。
オブザーバー	妊娠前から始める妊産婦のための食生活指針の中に“妊娠を希望する女性は、胎児の神経管閉鎖障害発症リスク低減のために十分な葉酸摂取が必要”とある。指針としてはミネラルやビタミンも同様に明記されているため、表現を考えていいのではないか。
事 務 局	持ち帰って検討したい。その他の市民の取組で、「毎食野菜を食べよう」とあるので、そこに“葉酸を含む”とするのかを含めて検討したい。
会 長	欠席委員の意見で、「自分の体は食べたものから作られている」という基本も改めて認識できるよう、市民の目標として明記した方が良いのではないかとあった。資料2の「家庭・園や学校・地域における食育の推進」の乳幼児期の欄に空白がある。その空白に、「食べたもので体ができていることを知ろう」と明記してはどうか。そのようにすると、欠席委員が言われていた“園の頃から食に関する知識を身に付けることが重要”にも繋がる。
委 員	年長児でやっと赤黄緑のグループ分けを教えているので少し難しいように感じるが、食べたもので体ができているというのは、ぼんやりとなら分かるのではないか。
委 員	園と関わる機会があり、ランチルームに栄養士が作成した赤黄緑の掲示物がある。年齢に関係なく、スペースがあれば掲示して、こども達が

委 会	員 長	興味関心を惹く啓発も大事と思う。 各園でも啓発を行っており、園でも工夫して継続していきたい。 皆さんの御意見を鑑み、空白のところに明記してもいいのではない か。給食の現場も忙しい現状があるが、計画を策定して実践するために、 目標に入れることも重要。可能であれば、乳幼児期に先程の「食べたも ので体ができていることを知ろう」を明記すると、計画や施策を考える 際に、この年代にも何かしないといけないという視点を共有することが できる。
事 務 会	局 長	ニュアンスが変わる可能性もあるが検討して最終案としたい。 欠席委員の意見で、「さまざまな機会をとおして、農林水産物の生産 に関わる人々と交流しよう」について、園では機会を設けることは難し いとあったが、さまざまな機会があるということを周知するという認識 でいいか。
事 務 局	局 長	市としては、ねたろう食育博士養成講座で生産者に来ていただいでい る。体験の場を設けるなど団体が自主的に行っている機会もある。欠席 委員としては、園での具体的イメージができないとの意見だった。
会	長	園でそのような機会を得たい場合、相談窓口として生産者に直接連絡 という形なのか。
委	員	現在、小学校の受け入れをしており、その場合は直接連絡をいただく。 園からの連絡は今までなかった。見学の依頼や要望があれば検討した い。
会	長	これは園としての取組ではなくて市民の取組としてなので、乳幼児期 から明記してもいいのではないか。
委	員	先日、11月16日に建干網漁体験のイベントを開催した。参加者の こどもは刺身をよく食べていたが、家ではほとんどのこどもが鶏のから 揚げを食べているとのことだった。園や学校で魚料理をどのように出し ているかなと感じた。
会	長	家庭で、保護者は魚を食べているが、子どもは別のものを食べており、 個食という現状もあるのではないか。学校給食で魚料理はどのようなも のがあるか。
連絡会委員		学校給食は栄養士が献立を考えている。給食提供にあたり、小学生は 293円、中学生は339円で提供（米・牛乳を含む）をしている。魚 は1食当たりの単価が高いため提供回数が減るのが現状だが、週1回は 魚料理を提供できるように取り組んでいる。また、給食は時間との戦い である為、頭がついた魚を提供することは難しく、切り身になる。
委	員	園も、魚は1食当たりの単価が高いこともあるが、週1回は提供して いる。うちの園では地元の鮮魚店から切り身で提供してもらっている。 コロナ禍前は、年長児のクッキング保育で、鮮魚店の方に来ていただき、 サンマを3枚おろしにして、かば焼き井などの食育を行っていた。サン マの値段も高く、再開はできていないが、命をいただく体験をすること ができていた。こどもは回転寿司等でサーモン（鮭）のなじみが大きい ように感じる。本日の園の給食は白身魚の西京焼きだったが、こどもは

会 委 会	長	意外と魚が好きなので、今後も給食で魚を提供していきたい。
	員	魚は値段の影響が大きいとのこと。しかし、魚は肉に比べて命をいただくことが分かりやすい。コロナ禍で中止になったものを再開することは難しいと思うが、現在行っている取組はぜひ継続してほしい。
会 委 会	長	園や学校の給食はバランスが整っているが、給食がない夏休みは困る。夏休みは栄養が偏るため、特に子育て世代に向けて、健康な身体を維持する食生活について情報発信してほしい。
	員	夏休みは様々な食の問題もあるようだ。給食等の努力がすごく伝わるので、市民の取組として、長期休業中に、こども達自身が、食事のバランスを理解することも大切。すぐには身につかないと思うが、「ライフステージに応じた市民の取組」を作成することで、乳幼児期から知ってもらい、給食提供がない期間であっても、食事のバランス等、こどもの考え方が変わるといい。この「ライフステージに応じた市民の取組」を周知することで、食習慣が変わる行動の目安になるといい。
会 委 会	員	65ページの郷土料理は何の郷土料理か。カラーであれば分かりやすいが、行事食等がこどもに伝わっていないのではないかと思った。給食の行事食はとても大切。家庭では時間がなく難しいと思うため、給食で分かりやすく指導して頂ければと思う。
	長	郷土料理は家庭で作りにくい現状もあるのではないか。行事食といえば、おせち、年越しそば、恵方巻き等が主流ではないか。行事食を継承することも大事。39ページの目標指標22「郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合」をどう増やしていくか、そのための施策や方法を皆さんで考えていきたい。
委 員 会	員	「ライフステージに応じた市民の取組」は、年代別に示してあり、分かりやすくまとまっている。これを今後どのように活用するのか。配布場所によって抜粋する等の周知の予定を教えてください。
	事務局	今後、第3次食育推進計画を作成後、概要版を作成する予定。概要版は多くの市民の目に触れるように配布や周知をしていきたいと考えている。その中で、市民の実践につながるよう市民の取組を分かりやすく明記していきたい。
委 員 会	員	大変分かりやすいので、多くの市民の目に触れる周知をしていただきたい。
	委員長	自分自身、調理法や食べ方がわからない等、食わず嫌いの食材がある。食べ方が分からない食材は買い控えの傾向がある。新種の食材や市の特産品等はどのように食べるのか等、SNSを活用してレシピを発信し、興味を持ってもらって食事を楽しんでもらうことも大切。その辺りも食育推進計画を推進する際に皆さんからご意見をいただいて考えていきたい。
事 務 局		(2) その他
	事務局	概要版の作成について、第3次食育推進計画を作成後、計画の概要版を事務局で作成する予定。基本的には、計画書に掲載している内容を市

オブザーバー	民に分かりやすい形でお示しできるよう概要版を作成し、概要版を活用して周知を行うことで、より多くの市民のみなさんに食育に取り組んでいただき、食課題を解決に向けて役立てられるようにと考えている。 現在、担当業務で給食施設も担当しているが、会議の中で園や学校で食育をしてほしいという意見が多かった。園や学校では１００％給食を提供しており、併せて食育計画も１００％各施設で作成している。各施設の食育計画を基に、給食だよりや掲示物の作成、給食放送を行う等、栄養士は頑張っている。今回の会議の中で、「企業とコラボした食育を導入してはどうか」という意見があったが、こどもは、給食に関する関心は高い。企業による食育もいいが、実際に給食に携わっている栄養士の話が一番いいように感じる。献立は“食べてもらいたい”“元気になってほしい”等の思いで考えられている。栄養士が対面での食育を行うことが難しいこと、全学校に栄養教諭がいない現状もあり、実際に現場にいる先生や保育士等の協力なしでは食育は進まない。栄養士の方には、どのような思いで給食を考えているか等のコンセプトをぜひ伝えてほしい。 また、魚食普及事業の中で、こども達は自分たちで作った料理は食べていた。また、果物狩りも自分たちで収穫すると食べている。体験をすることがとても重要。第３次山陽小野田市食育推進計画の目標と、各施設の食育計画をあわせて市の食育が推進されていくといい。 ３ その他 (特になし) 閉会
--------	--